

## 特別支援学級における「ストレッチマンV」を活用した単元作り

神奈川県横浜市立仏向小学校 教諭 東森 清仁

### 特別支援学級 体育 「ストレッチマンV」

#### 【番組紹介】

ストレッチマンVは知的障がいや肢体不自由などの障がいのある児童を対象に、ストレッチ体操や身体操作、体づくり運動などに楽しみながら取り組み、運動への親しみの気持ちや、学習や生活の基礎を養うための番組である。

#### 【単元デザイン】(全3時間)

##### 1 導入「番組視聴」

###### 第6回 「からだでまねっこ」

番組を全体視聴し、模倣の運動について知る。動物を例に挙げ、いろいろな動物になりきって身体操作を楽しむとともに、友だちの動きからどのようなイメージの動きなのかを読み取る活動への見通しをもつ。

##### 2 課題把握「つかむ」

身体操作のための導入として新聞紙の動きを真似る遊びを全体で行った後で、番組でのまねっこ遊びを実際に活動に取り入れ、「サル」「鳥」の動きを全員で楽しむ。児童の動きの中からそれぞれの工夫を取り上げ全体化し、模倣の運動への理解を深めるとともに、楽しむ心情を育てる。



##### 3 活動前段「楽しむ」

どのような動物になりきって遊びたいかを児童の発想の中から取り上げ、全体でその動きをイメージした後に体を動かして楽しむ。

活動内容の定着が見られたところで、それぞれ自分でイメージした動物の動きを発表し、他の児童が何の動きかを考える活動を楽しむ。

##### 4 活動「豊かにする」

「海の世界をつくろう!」「ジャングルランドであそぼう!」のテーマを設け、それぞれの世界の中に出てくる生き物を想像し、自由に体を動かして表現する活動を楽しむ。世界の中でどのような生き物になりきって動いていたのかをお互いにあてっこをして楽しむ。

#### 【学級の実態】

本学級では今年度より低学年児童1名、中学年児童6名、高学年児童6名が一つの教室で活動に取り組んでいる。身体能力についても発達段階の違いが見られ、体育の学習の中では個に応じた指導が必要とされるが、表現の運動ではどの児童も同じように楽しむ様子が見られた。

#### 【今回の実践における番組効果】

- 新鮮な経験を与えて、豊かに想像力や学習への興味を育てる。
- 練習のための正しい規範を与える。
- 教師の授業における指導過程のアイデアを与える。

#### 【深い学びに関する教師の工夫】

ストレッチマンVでは、身体操作に関する内容や運動遊びについての内容、コミュニケーションの基盤となる内容など放送回によってそれぞれの番組活用のめあてを教師側で選択できる点が特徴である。

今回の授業実践においては、番組内容を基に下記のような点を工夫し、児童が主体的に学べるような単元作りを行うことができた。

##### ●視覚的な支援

###### 動きのモデル・活動の見通しとして

番組視聴によってまねっこ遊びに対する児童の興味関心を高めるとともに、運動や活動の一つのモデルとして視覚的に理解を深め、その後の活動の流れについての見通しをもたせることができた。

##### ●全員参加型の活動としての取り組み

###### 動き当てを実態に応じて

今回の取り組みでは、番組の中の「まねっこあそび」のコーナーを視聴し、児童の意欲を高めるとともに、番組中の「動き当てクイズ」を活用し、全員が主体的に参加できる場面設定を行った。



##### ●番組からの発展的な取り組み

###### スモールステップ・発展的内容

あそびのコーナーをもとに、遊びの内容をさらにスモールステップ化して授業を区切りながら単元計画を立てることにより、児童にとって無理のない活動とすることができた。活動後半では番組の内容を発展的にとらえ、「〇〇ランド」というテーマを設定することで児童がテーマに沿った動きを発表しあう活動に取り組むことができた。

#### 【成果と課題】

通常の体育の学習においては身体操作についての発達段階に応じた単元開発が必要な場合も多いが、まねっこ遊びではどの児童もそれぞれ自分のイメージに応じた動きを楽しむことができた。言語から動きのイメージをもつことが難しい児童についても、事前に視聴した番組内容から見通しをもち、活動に意欲的に取り組むことができていた点は大きな成果といえる。

本単元では番組を発展的にとらえ、テーマを設けて自由にイメージを膨らませる活動を単元のまとめとして設けた。今後の課題としてはイメージを基により大きく体を動かすなど、身体表現を豊かにするための手立てについて考えていくことが必要だと感じられた。